



## 岐阜米穀(株) メールマガジン

今回のテーマは

「欧州エネルギー暴騰で欧州では窒素肥料の生産が7割減して3割になった」

今まで、世界中で作物の生産性は上がり続けてきた。これは技術進歩のおかげで、特に窒素肥料の功績は大きかったのです。

窒素肥料は、大気中に豊富に存在する窒素から、高温・高圧の科学反応プロセスを経てアンモニアを合成するという「ハーバー・ボッシュ法」によってもたらされた。

20世紀初頭のドイツ化学産業は世界一だった。その歴史の中でも偉業がこの窒素肥料合成でした。

この技術で世界人口は大幅に増加して、今日まで人々の栄養状態は劇的に改善してきた。さてこの窒素肥料製造の工程には多くは天然ガスを使用します。欧州、特にドイツでは、従前はロシアのパイプラインによる安価な天然ガスを利用して窒素肥料を生産してきました。しかし、EUの天然ガス価格は、2年前の15倍にもなった。これは米国の10倍の価格となります。

これでは全く国際競争力が無くなり、欧州の窒素肥料工場は停止し、生産が激減したのです。そして問題は欧州だけに止まらなくて、世界中での肥料供給不足と、国際価格の暴騰してしまったのです。

理由のひとつは欧州の工場停止で、欧州は肥料の純輸入国になりつつある。これに加えて、現状ではロシアのウクライナ侵攻によって、ロシア・ウクライナ両国からの肥料輸出入も滞っている状態です。世界市場での肥料価格の暴騰の影響を日本も受けているJA全農は、6～10月の肥料価格を大幅に引き上げました。もっと煽りを受けるのは、貧しい国々になります。

国際肥料協会によれば、アフリカの何百万人もの人々がすでに飢餓に直面している。

そのような状況において、来シーズンの世界の肥料供給は7%減と予測されている。

貧しい人々にとって、高い肥料を飼う事の経済的負担は大きい。のみならず、もし買い負けて肥料が手に入らなければ、作物も育たず、食料が確保できなくなる。

欧州の窒素肥料産業は、政府の救済によって企業体としては生き長らえたとしても、ロシアからの安い天然ガスはもはや供給されない。

操業を続けたければ、高騰した液化天然ガスを輸入して肥料生産をすることになりますが、ガスも電力も価格が暴騰し供給が不足している欧州で、果たしてそのようなことはできるのでしょうか。欧州の窒素肥料工場は操業停止は現状ではしばらく続くこととなります。

その後も、欧州の産業は高いエネルギーコストに直面することになり、その上に脱炭素政策も追い打ちをかける心配があります。窒素肥料が発祥の地である欧州、特にドイツから無くなってしまふのかもしれないのです。

●穀物のことはお尋ねください~~~~~

穀物の流通から製造・販売までのノウハウを提供します

岐阜米穀は創業 118 年になる米から始まり、雑穀、もち麦、オートミールなどの穀物全般を扱う国内では数少ないメーカーとなります。

今まではライスアイランドを販社として、50%以上の全国の量販店に商品が並ぶまでになりました。

また、プラントベースの原材料としての供給も増えております。

穀物は差別化がやりにくい商材ですし、規制に守られてきた業界特有の慣例であるがゆえ、付加価値創造企業としてチャレンジをしてまいりました。

全国をターゲットにして展開するにあたって、取扱商品（穀物）の利益率アップとローコスト体制に取り組んできました。

仕入れは直接輸入をすることで、実績も 30 か国以上になりました。

また、米など規制商材でも業界で出来ないような付加価値づけのチャレンジをしてまいりました。

工場のラインは大ロット・小ロット・個包装などの設備をそろえており、品揃えができる生産体制があります。また、自社倉庫も確保しています。

輸入・仕入れノウハウ／自社倉庫による国内在庫

米、雑穀、豆、大麦、オーツ麦、ライ麦など穀物によって特性が異なります。そのために多様な知識が必要になります。

ニッチな世界のため、長年の実績と経験で知識をつけてきました。

=====世界調達力でローコストを実現=====

輸入実績（一部）：?カナダ、アメリカ、韓国、中国、内モンゴル自治区、オーストラリア、フィンランド、ペルー、ポリビア、インド、メキシコ、スペイン、トルコ